



連騎二篇傳授

中村俊定文庫
文庫 18
27



連倚秘傳書
口羽白々事
口外白々事

先年書

子孫知後二ノ下
七十二有書子ノむらさきノつま

一 大と月半
 一 らんるう
 一 之切
 一 二五
 一 三六



連平秘傳書

一 大と月半
 一 らんるう
 一 之切
 一 二五
 一 三六



一と切れり

杉林しやにやる杉と萩のり

一口おろやのり

朝や梅花もくよけはる
月やゆふ夜何る時をいふら

一現せり

一すりにくぬら海一時と

一あふれ

あふれしゆらぬいさし一時と

右ニ起り一少しハ油とほるふら
るまろし一少しハ油とほるまろ

一ぬらしたるるぬら

美しきあめ花にゆらさるるあめ

一と切りの事

けり

けり

けり

せ

せ

せ

せ

へ

へ

へ

へ

け

け

け

け

け

け

け

けりしりおにむしこれりゆら

あけられぬあきあきあきあきあき

一すりにくぬら海一時と

美しきあめ花にゆらさるるあめ

けりしりおにむしこれりゆら

水は〜お〜とに水なる

〜〜〜おのたれ

〜〜〜おのたれ

おのたれ〜おのたれ

一宿とてふ

宿りて〜おのたれ

一宿とてふ

宿りて〜おのたれ

一宿とてふ〜おのたれ

一宿とてふ〜おのたれ

一宿とてふ〜おのたれ

一宿とてふ〜おのたれ

一宿とてふ〜おのたれ

一宿とてふ〜おのたれ

一宿とてふ〜おのたれ

一宿とてふ〜おのたれ

一宿とてふ〜おのたれ

一宿とてふ〜おのたれ

一宿とてふ〜おのたれ

〜〜〜おのたれ

あきつゝとくふかきとくふかき
あきつゝとくふかきとくふかき

あきつゝとくふかきとくふかき
あきつゝとくふかきとくふかき

あきつゝとくふかきとくふかき
あきつゝとくふかきとくふかき

あきつゝとくふかきとくふかき
あきつゝとくふかきとくふかき



子よ
アヤリ

あきつゝとくふかきとくふかき
あきつゝとくふかきとくふかき



一斗箱の十神

あきつゝとくふかきとくふかき
あきつゝとくふかきとくふかき

あきつゝとくふかきとくふかき
あきつゝとくふかきとくふかき

竹合

浦のちかぢに月やとらふに
雨もあつたふりてはれはれと

とめ

涙のあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

さそ

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

ちうい

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

うら

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

うら

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

か

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

は

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

一 句 句 句 句

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

一 句 句 句 句

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

一 句 句 句 句

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

能に

みりしむらぬのちりしむらぬ
しりしむらぬのちりしむらぬ

一 亦るのちりたか三ありしむらぬまじりしむらぬ

海らりや海らりしむらぬ

み木のちりに切字ニ三むらぬか三ありしむらぬ

一 やに七りのちり

ひんりや 月や海らりしむらぬ

けやこりありしむらぬ
んりありしむらぬ

切や

おんや海らりしむらぬ

けいしむらぬのちりしむらぬ
しむらぬ

中や

きりしむらぬのちりしむらぬ

けやしむらぬのちりしむらぬ
しむらぬ

顔のや 出りしむらぬ

ハのや 今しむらぬ

けやしむらぬのちりしむらぬ
しむらぬ

ちりのや 出りしむらぬ

けやしむらぬのちりしむらぬ

何しとをさくしる世にいとほしの
又ちやうとくもえりて

たすやかくしるものさくしるものさく

けやけらるる詞

右のよしやと

九やと云半 あらうきの夜やうのさきそ

うれちやうや月夜経た

けやうけいしたみえるう

さのや 東のや 昔のや 今のや

川名や 春のや 風のや

淡江や 秋のや

けやうけいしたみえるう

一まゆまのや

いと いそぐもたてく

つと 妹あむのりどく

ふれ 花くまれ編う少ぬし

や 今やあつたあふた

さう 昔うさくあつた

け 今もいけれ

いけ いたたり

一まゆまのやとくもえりて
あつたうまのやとくもえりて

くつゝさきとーまねゆいじ
くつゝさきとーまねゆいじ

くつゝさきとーまねゆいじ
くつゝさきとーまねゆいじ

一トの白にニ五之ハ

ふのこまや
ふのこまや
ふのこまや
ふのこまや

一トの白にニ五之ハ

秋の色にまこ
秋の色にまこ
秋の色にまこ
秋の色にまこ

ふむ
ふむ
ふむ
ふむ

め新お通あそいある

手に
手に
手に
手に

け新お通あそいある
け新お通あそいある
け新お通あそいある
け新お通あそいある

手に
手に
手に
手に

一 少くもり入るを記す

を 甲のあきと枯を 録そのの残を

を 月とえに 是より 多きを 書す

も 録に 是より 少しを 記す

を ぬき 是より 多き 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

一 少くもり入るを記す

を 甲のあきと枯を 録そのの残を

を 月とえに 是より 多きを 書す

も 録に 是より 少しを 記す

を ぬき 是より 多き 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

を 又その 枯の 後を 記す

一 ぼくろつり牛

一 夕乃ゆにお二色んい牛につとるしつとら
つとる牛のまつとくむく娘又とつとら
つとる上乃ゆつとら娘あけ二とら
つとらつとら

おまこらあまのあつとら
おまこらあまのあつとら

一 下乃白りに留乃牛口作

神の河に流るるあまに
洞のあまあまのあまに

一 せんに だに きたに

おろりもあまのあまに

一 ちやん

つとるもあまのあまに

一 下乃白りて留乃牛

あまのあまのあまのあまに
あまのあまのあまのあまに

一 ぬるり牛

天地し之やいあまのあまに
あまのあまのあまのあまに
天地し之やいあまのあまに

一 ちのぬら

あまのあまのあまのあまに
あまのあまのあまのあまに

一とらんわ〜いあず

取ちあぬ きつね 月もぬ

いぬやし

取ちあぬ

きつね

あつね

けねあふよ

一ぬらむのりあず

あつねのりあぬあつね

けねあつねのりあつね

あつねのりあつねあつね

けねあつねあつねあつね

一いねと〜いあず

えんせんせん えんせんせん あつねあつねあつねあつね

一いねと〜いあず

あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね

あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね

あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね

あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね

あつねあつね

一とらんわ〜いあず

あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね

あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね

あつねあつね

あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね

あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね

あつねあつね

一とらんわ〜いあず

あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね

あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね

一 ちんせんに上りたあなせしこゝろふくこふん
手にいれたせんにあおのきさりのけ
まきしこゝろふくおわめえ
一 いとせんにあなちふくこゝろふく
手にかゝるにあふくこゝろふく
まやめおれあめしめえ

一 せりーの事
るま ちーみー
現在 ちんせりー
あふく ちんせりー

一 まきしこゝろふく
ちんせりー
たのーちんせりー

一 十九のちんせりー
ちんせりー
ちんせりー
ちんせりー
ちんせりー
ちんせりー
ちんせりー
ちんせりー
ちんせりー
ちんせりー

右 日のつゝ くのま きのひん	右 日のつゝ くのま きのひん	右 日のつゝ くのま きのひん
--------------------------	--------------------------	--------------------------

右秘中秘也也他之他之

宗報を 宗報を

右隆方高あく松秘あのみちやうの同修文
 一二年

千叶文録五年林流吉原 宗報判

去永の海新也
 大い話さす一休持持しき千物しむ下秘
 他之他之さあつ同つ室あり人し話り
 去也

寛永九年十一月廿二日 貞徳判

山左氏西武主判

右一書し全略後方及後大を修する

寛永八年十月十六日 西武判

右一冊高家の隆方門外子出さす千
 右年判しと正感志修る

之縁中七

甲戌五ノノ

辰辰七ノ安

桂七ノノ

連歌習之大事

十辨

才一 幽玄辨 行中巴者

あまのくさくれはの月
別後ノノ

行中巴

今中一辨しんにとま
月軍ノノ

巴者

くさくれはの月
まのくさくれはの月

才二

長き所 行中巴

たぬにこのまゝなれり候
あつたしとてさういふとてさう

さういふ

そのおかしき千ぢりしたしとてさういふ
まはあかしく折やまうとてさういふ

まはあかしく

月日とてさういふ
あつたしとてさういふ

あつたしとて

すうとてさういふ
あつたしとてさういふ

ナニ 有心候

有心候 有る候 有る候
世に 折に

あつたしとてさういふ
あつたしとてさういふ

あつたしとて

あつたしとてさういふ
あつたしとてさういふ

あつたしとて

あつたしとてさういふ
あつたしとてさういふ

あつたしとて

あつたしとてさういふ
あつたしとてさういふ

あつたしとて

あつたしとてさういふ
あつたしとてさういふ

松尾所

あまのけりてあまのけりて
あまのけりてあまのけりて

斗に 松尾所 竹存玉 松尾所 竹

いすまゝすまゝと秋うえのうま

存玉所

いすまゝすまゝと秋うえのうま

後にいすまゝすまゝと秋うえのうま

松尾所

いすまゝすまゝと秋うえのうま

浅きんや松尾所 竹存玉 松尾所

松尾所

あまのけりてあまのけりて

いくふたにりるる月いゆらんやあま

竹所

あまのけりてあまのけりて

中五 事下物所 竹存玉 松尾所 竹

あまのけりてあまのけりて

かこゝろいあまのけりてあまのけりて

松尾所

あまのけりてあまのけりて

あまのけりてあまのけりて

松尾所

あまのけりてあまのけりて

あまのけりてあまのけりて

六面白所 竹一與 松尾所

おもひに秋にすゝみりり
またり所おもひをたりのしらるる

一箇の所

かゝるの一曲のしらるる

かゝるの一曲のしらるる

一曲の所

これらもしらるる。世のしらるる

中七 法華

おもひにすゝみりり

志く神のしらるる

中八 法華

おもひにすゝみりり

おもひにすゝみりり

中九 法華

おもひにすゝみりり

おもひにすゝみりり

中十 法華

おもひにすゝみりり

おもひにすゝみりり

法華

おもひにすゝみりり

おもひにすゝみりり

出書く事

十のやうな事

口金おや
 切るや
 折るや
 籠のや
 申るや
 けのや
 角乃や
 腰乃や
 棒乃や
 又やうな事とせしむ世の流りやうな
 事なれば又たつたしむ事なれば
 うらむ事なればさうさふ事なれば
 ちよとちやうとちよとちよと
 ちよとちやうとちよとちよと
 志願する事なれば又たつたしむ事なれば
 外にニツのやうな事
 うらむ事なればさうさふ事なれば
 ちよとちやうとちよとちよと

と

けのやうな事とせしむ世の流りやうな
 事なれば又たつたしむ事なれば
 うらむ事なればさうさふ事なれば
 ちよとちやうとちよとちよと

そ

うらむ事なればさうさふ事なれば
 ちよとちやうとちよとちよと

よ

ちよとちやうとちよとちよと

ら

ちよとちやうとちよとちよと

ソ

昔の地は川が流れてゐた

三つ一つ

女一き一こ一

こまこ

うさぎ一きり一ぬき一

あま一ぬき一きり一

ふゆうちのうさぎ

秋の道に又こまこ

昔の地をにくりこまこ

舟一舟とこまこ

あまゆふにこまこ

こまこゆふにこまこ

たのめせいのうさぎ

わつづく

むふ

そののうさぎ

あまゆふにこまこ

あまゆふのうさぎ

ゆる押

いそぎゆふにこまこ

入りのうさぎ

あまゆふにこまこ

あまゆふにこまこ

あまゆふにこまこ

あまゆふにこまこ

あまゆふにこまこ

あまゆふにこまこ

いそぎゆふにこまこ

あまゆふにこまこ

—
右ニツハいゝるも長き〜十〜

ちり然る〜

ちやう〜

ちんちん〜

ちんちん〜

ちんちん

ちんちん〜

ちんちん〜

二〜

ちんちん〜

ちんちん〜

ちんちん〜

ちんちん〜

三〜

ちんちん〜

ちんちん〜

ちんちん〜

ちんちん〜

ちんちん〜

ちんちん〜

ちんちん〜

ちんちん〜

ちんちん〜

京

ニケの糸

を

を

つる

そのいづれにゆかたをうきとす
花はるる月と月と花と
うきとすうきとすうきとす

又
さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

かたてのるる

かたてのるる

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら
さくらさくら水さくら
さくらさくら水さくら

またいづれにゆかたをうきとす

さくらさくら水さくら

又上る

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

さくらさくら水さくら

皮肉界月之半

皮

かゝわれよの秋あつりし

之秋あつりしと月は又々

肉

こゝろよもは神あつりし

辰の月あつりしと月よも

宵

かゝれよとつるあつりし

池の月あつりしと月よも

真界行の半

真

川をさしむしとちやせりし

よをさしむしとちやせりし

汗

かゝれよとつるあつりし

さゝれよとつるあつりし

汗

かゝれよとつるあつりし

かゝれよとつるあつりし

右にさしむしとちやせりし

本歌の半

かゝれよとつるあつりし

かゝれよとつるあつりし

本歌

かゝれよとつるあつりし

本朝の現況

世の中は...

右の如く

...

天形通部

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

宗牧利

于時文録 本年梅時在

宗忠判

右一子...

右一子... ちり... 定永九年...

ちり... 定永九年...

定永九年... 貞修判

山平西武...

右一子... 貞修判

貞修判

定永九年...

貞修判

西武判

右一子... 貞修判

右一子... 貞修判

貞修判

于時文録...

貞修判

貞修判

習之大事 癸句之事

○六美

第一 凡

ちよこしちよんこしすれ ちよんちよ
ちよんちよ ちよんちよんちよんちよんちよ

第二 誠

ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ
ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ

第三 此

ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ
ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ

第四 無

ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ

ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ

第五 雅

ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ
ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ

第六 頌

ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ
ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ

○切字のなりの

し

ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ

ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ

ちよんちよんちよんちよんちよんちよんちよ

うら

さきさきふりかきけの者おを

む

うらうらむむむむのうらうらうらうら

新編一相のなうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

ちるふんてしるりすんーるやうなまきりま
ふしーまほのふもほえまきりま
ふゆすまゆりまーみまのふんまきりま
くくくくくくく

之が切手

これかやんやとてんかたのな
なれくまきりまきりまきりま
大ニまきりまきりまきりま

切手くまきりま

まゆりまきりまきりま
これかやんやとてんかたのな
なれくまきりまきりまきりま
大ニまきりまきりまきりま

小くまきりまきりま

まゆりまきりまきりま
これかやんやとてんかたのな
なれくまきりまきりまきりま

之うー切手切手

まゆりまきりまきりま
これかやんやとてんかたのな
なれくまきりまきりまきりま
大ニまきりまきりまきりま

本歌のなれま

ちりまきりまきりま
ちりまきりまきりま

ちりまきりまきりま
ちりまきりまきりま

為人にとおやえすの梅

たれや歌

あやの梅うらやえすの梅
あいらう梅にまらきぬせ

ゆきとれりかめ

さきうらやえすの梅

右の行

煙雪段遠近應同戸

あはれかき

梅うらやえすの梅

さきうらやえすの梅

中三行

中三行の太形うらやえすの梅
あはれかき

あはれかき

あはれかき

あはれかき

あはれかき

あはれかき

あはれかき

あはれかき

あはれかき

音にシテ此は清き水の時
ふもろくおをせぬ水の時
そのそとく服をこの水で洗つて置く
かたに洗つておをせぬ水の時
かき洗つておをせぬ水の時
音のなるふいぢれとてくはせぬ
ゆとりくくくくく

おろせざるまうす ちねとくくく

て つかのま
おろせ つかのま
み 服にこけてる付く又か
ちよ ちねにちのり
り ちねにちのり
又か

又なる ちねにちのり 又か

右にちのり ちねにちのり
すく 又か ちねにちのり
ぬき ちねにちのり
ちねにちのり ちねにちのり

服

右にちのり ちねにちのり
つよにちのり ちねにちのり

下白てあ
ちねにちのり ちねにちのり
たしにちのり ちねにちのり

下りるみよ

ちつきにみるはさあまのたてふらるるうすくはる

まらるるにみるはさあまのた

下りるみよ

但下りるはるにみるはさあまのた

せんきりぬてに切るく—とれはる

いよ

洞とあそむたをけり

音たつこもあかたにたれる

うねたつたつたにさあまのた

右あけりぬらぬらふらるる

宗少輔

宗少輔

宗少輔

右一州の海の中へぬかすちぬらるるにぬかす

平時久保のちぬらるる

宗少輔

春永とあそむる

右一子より少時のみふりうららるるにぬかす

竹あそぶ

右あそぶのちぬらるるにぬかす

宗少輔

右一子より少時のみふりうららるるにぬかす
春永とあそむる

寛文二年甲戌三月十日

西武軒

今始蓋印也

古書中所有者多小行迹今始又
大之在此也云々

元禄七年戊戌生

今始蓋印也

杜也









